

TSE:9531



2020年度（2021年3月期）  
**第3四半期決算説明会**

2021年1月28日





# 01

## 2020年度 第3四半期決算実績概要

Copyright© TOKYO GAS Co., Ltd. All Rights Reserved. 

## 2020年度3Q実績 (連結) (2020.4.1 - 2020.12.31)

対前年同期実績

3

### ポイント 減収増益

(+/-▲は利益に対する影響を示す, 億円)

売上高	▲1,285	原料費調整に伴う都市ガス単価減、新型コロナ影響等による都市ガス販売量減等。
営業費用	+1,396	原油価格下落の影響、新型コロナ影響等による都市ガス販売量減等。
営業利益	+110	電力小売販売量増(件数増・在宅時間増)、固定費減等。
特別損益	+42	当期 ▲38 : (特別損失)減損損失▲75、投資有価証券評価損▲40、 (特別利益)投資有価証券売却益 47、負ののれん発生益 29 前期 ▲80 : (特別損失)減損損失▲80

(単位: 億円)					経済フレーム	
	2020年度3Q	2019年度3Q	増減	%	2020年度3Q	2019年度3Q
都市ガス販売量 (百万m <sup>3</sup> , 45M)	8,912	9,923	▲1,011	▲10.2%	為替レート(¥/\$)	106.10 (▲2.55)
電力販売量 (百万kWh)	17,685	14,158	3,527	24.9%	原油価格(\$/bbl)	39.04 (▲28.80)
内訳					平均気温(℃)	19.4 (▲0.1)
小売 (百万kWh、需要端)	7,152	5,766	1,386	24.0%		
卸他 (百万kWh)	10,533	8,392	2,141	25.5%	年金	2020年度3Q
売上高	12,335	13,620	▲1,285	▲9.4%	運用利回り	5.06%
営業費用	11,677	13,073	▲1,396	▲10.7%	※コスト控除後	
営業利益	657	547	110	20.0%	期末資産 (億円)	2,710
セグメント利益 (営業利益+持分法損益)	660	593	67	11.1%		
経常利益 …①	623	569	54	9.6%		
特別損益	▲38	▲80	42	—		
親会社株主に帰属する当期純利益	453	336	117	34.9%		
気温影響 …②	▲11	▲21	10	—		
補正項目						
スライドタイムラグ …③	140	50	90	—		
(都市ガス+LNG販売)	(115+25)	(34+16)	(81+9)	—		
年金数理差異償却額 …④	6	▲57	63	—		
補正経常利益 …①-②+③+④	488	597	▲109	▲18.3%		

<期待運用収益率: 2%>

Copyright© TOKYO GAS Co., Ltd. All Rights Reserved. TOKYO GAS

第3四半期の業績は「減収増益」となりました。

売上高は、▲1,285億円減の1兆2,335億円となりました。これは、「ガスセグメント」における原料費調整に伴う都市ガス単価減、新型コロナ影響等による都市ガス販売量減等が主な要因です。

営業費用は、+1,396億円増の1兆1,677億円となりました。これは、「ガスセグメント」における原油価格下落の影響、新型コロナ影響等による都市ガス販売量減等が主な要因です。

この結果、営業利益は+110億円増の657億円、経常利益は+54億円増の623億円となりました。

これに加えて、特別損益において▲38億円を計上し、法人税等を控除した結果、親会社株主に帰属する当期純利益は、+117億円増の453億円となりました。

なお、減損損失▲75億円は、第2四半期に計上した海外事業に関わる減損損失▲64億円と同一案件で、第3四半期において将来の油価見通し等を洗い替えたものとなります。

キャスルトン・リソーシズ社の子会社化に伴う投資有価証券評価損▲40億円と負ののれん発生益29億円は、第2四半期から変更ありません。

また、第3四半期に政策保有株の一部売却を行い、投資有価証券売却益47億円を計上しました。

# 2020年度3Q実績 (連結) ガス販売量・件数

対前年同期実績

4

## 都市ガス販売量



## 件数、LNG販売量、平均気温

	2020年度3Q実績	2019年度3Q実績	増減
小売お客さま件数 (万件) <sup>※1</sup>	893.5	925.9	▲32.4 (▲3.5%)
取付メーター数 (万件) <sup>※2</sup>	1,204.1	1,190.5	+13.6 (+1.1%)
LNG販売量 (千t)	771	863	▲92 (▲10.6%)
平均気温 (°C)	19.4	19.5	▲0.1

※1 ガス小売事業者としてのガス料金請求対象件数 (過去の推移はP.25参照)  
 ※2 休止中・閉鎖中・他社小売分を含む導管事業者としてのメーター取付数

## 販売・自家使用量 (百万m<sup>3</sup>)

	2020年度3Q実績	2019年度3Q実績	増減
都市ガス販売量	8,912	9,923	▲1,011 (▲10.2%)
トレーニングによるガス自家使用量	2,346	1,545	+801 (+51.8%)
LNG販売量 (m <sup>3</sup> 換算)	964	1,079	▲115 (▲10.6%)
合計	12,222	12,547	▲325 (▲2.6%)

Copyright© TOKYO GAS Co., Ltd. All Rights Reserved. TOKYO GAS

ガス販売量についてご説明いたします。

第3四半期のガス販売量は、▲10.2%減の89億1,200万m<sup>3</sup>となりました。発電用における、大口件名の契約終了や、新型コロナ影響等にもなう稼働減による、▲6億1,400万m<sup>3</sup>の減少が主な要因です。

新型コロナ影響は、家庭用・業務用・卸における「その他」に、一部含まれており、家庭用においては巣ごもりにより需要が増えました。

業務用においては主に飲食店・ホテルでの需要減がありました。経済活動の再開等に伴い、11月にかけて徐々に回復傾向にありました。

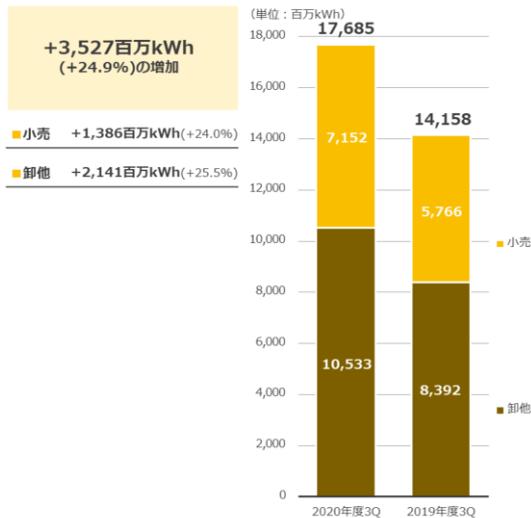
工業用については、発電用において12月の電力需要増等により、需要が増えました。

## 2020年度3Q実績 (連結) 電力販売量・件数

対前年同期実績

5

### 電力販売量



※各項目は四捨五入して表示

### 小売件数実績

※小売件数 = 電力料金請求対象件数



### 「キャンペーン」実施期間

2019年度	2020年度
春：2019/5/2～2019/5/31	夏：2020/6/2～2020/7/20
夏：2019/6/17～2019/10/8	2020/7/30～2020/10/26
秋：2019/10/15～2019/12/23	秋：2020/10/30～2020/12/25
冬：2020/1/6～2020/4/30	冬：2021/1/7～2021/2/22

Copyright© TOKYO GAS Co., Ltd. All Rights Reserved. TOKYO GAS

電力販売量についてご説明いたします。

第3四半期の電力販売量は、全体では+24.9%増の17億6,850万kWhとなりました。

小売においては、契約件数の増加により+24.0%増の7億1,520万kWhとなりました。卸他についても電力卸取引所への販売増加等により+25.5%増の10億5,300万kWhとなりました。

新型コロナの影響については、第2四半期同様、巣ごもりによる小売電力販売量増があったものと考えております。

## 2020年度3Q実績 (セグメント別) 売上高・利益

対前年同期実績

6

(単位: 億円)

	売上高				セグメント利益 (営業利益 + 持分法損益)			
	2020年度 3Q実績	2019年度 3Q実績	増減	%	2020年度 3Q実績	2019年度 3Q実績	増減	%
ガス	7,958	9,553	▲1,595	▲16.7	644	561	83	14.8
(都市ガス)	6,721	8,073	▲1,352	▲16.7	659	524	135	25.8
(LNG販売)	1,006	1,181	▲175	▲14.8	▲14	36	▲50	—
電力	2,823	2,497	326	13.0	148	51	97	185.7
海外	311	339	▲28	▲8.3	17	111	▲94	▲84.4
(持分法損益)	—	—	—	—	▲4	40	▲44	—
エネルギー関連	2,361	2,449	▲88	▲3.6	117	117	0	0.2
(インフラ投資ソリューション)	960	949	11	1.2	45	37	8	21.8
不動産 (持分法損益含む)	355	337	18	5.4	66	84	▲18	▲21.2
その他 (持分法損益含む)	789	852	▲63	▲7.4	24	36	▲12	▲32.6
調整額	▲2,265	▲2,409	144	—	▲359	▲369	10	—
セグメント合計額	12,335	13,620	▲1,285	▲9.4	660	593	67	11.1
(持分法損益)	—	—	—	—	2	46	▲44	▲93.8

[注] ・セグメント別の売上高には事業間の内部取引を含んでおります。

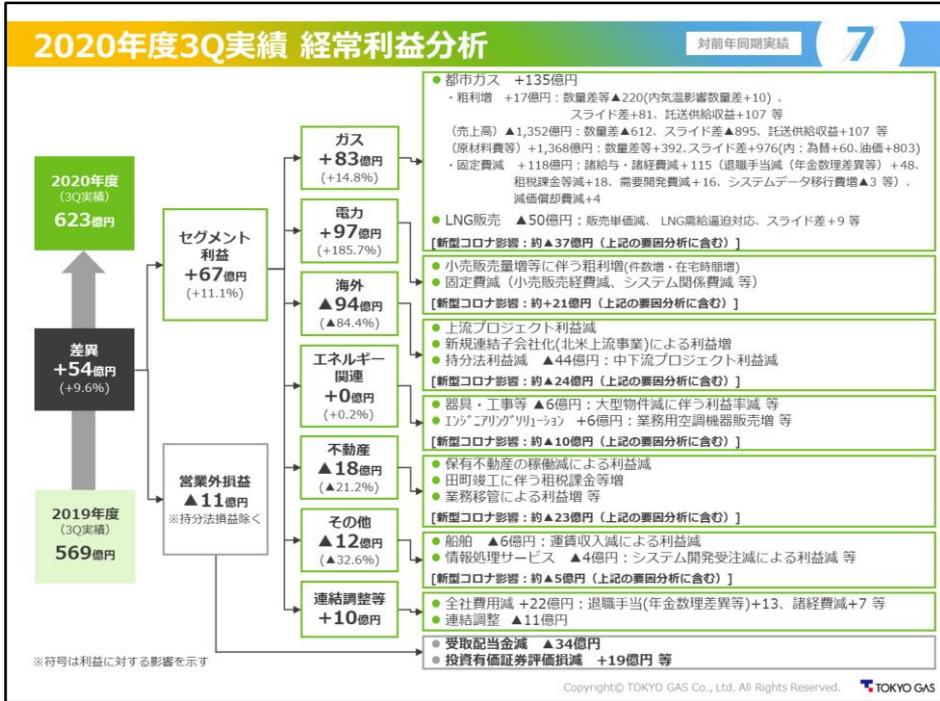
・「ガス」には、都市ガス、液化石油ガス、産業ガス、LNG販売、トレーディングを含みます。「エネルギー関連」には、インフラ投資ソリューション、ガス器具、ガス工事、建設、クレジット等を含みます。「その他」には、情報処理サービス、船舶等を含みます。

・セグメント利益の調整額の主なものは、各セグメントに配分していない全社費用です。

Copyright© TOKYO GAS Co., Ltd. All Rights Reserved. TOKYO GAS

セグメント別の売上高、および営業利益に持分法損益を加えたセグメント利益とその増減を記載しております。

セグメント利益については、「ガスセグメント」における+83億円増、「電力セグメント」における+97億円増が、全体利益を押し上げております。



ガスセグメントの+83億円の増益は、LNG販売における▲50億円減を、都市ガスの粗利増+17億円と固定費減+118億円で補いました。

電力セグメントは、小売り件数増や、在宅時間増に伴う販売量増による粗利増や、小売販売経費減等に伴う固定費減等により、+97億円増となりました。

海外セグメントは、北米上流事業を行う新規連結子会社における利益増があったものの、他の上流プロジェクトにおける利益減や、中下流プロジェクトを行う持分法適用会社における利益減等により、▲94億円減となりました。

第2四半期同様、新型コロナの影響については、各セグメントのボックス下部に概算額をお示しております。なお、新型コロナの影響だけを切り出すことは難しいため、影響額は記載されている各要因にも含まれていることに留意ください。



**02**

**2020年度通期見通し**

Copyright© TOKYO GAS Co., Ltd. All Rights Reserved. 

## 2020年度見通し (連結) (2020.4.1 - 2021.3.31)

9

### ポイント 増収減益(対前回見通し)

(+/-▲は利益に対する影響を示す, 億円)

	対前回見通し	
売上高	+270	低気温影響等に伴う都市ガス販売量増。
営業費用	▲350	JEPX価格高騰影響等。
営業利益	▲80	JEPX価格高騰影響等による粗利減。
特別損益	+4	見通し ▲14: (特別損失)減損損失、投資有価証券評価損(特別利益)負のれん発生益、資産売却益 前回見通し ▲18: (特別損失)減損損失、投資有価証券評価損(特別利益)負のれん発生益、資産売却益

	(単位: 億円)							
	見通し	前回見通し	増減	%	前年度実績	増減	%	
都市ガス販売量 (百万m <sup>3</sup> , 45MJ)	12,940	12,570	370	2.9%	13,855	▲915	▲6.6%	経済フレーム
電力販売量 (百万kWh)	24,615	24,146	469	1.9%	20,604	4,011	19.5%	為替レート
売上高	18,010	17,740	270	1.5%	19,252	▲1,242	▲6.5%	▲105.84 (▲2.62)
営業費用	17,220	16,870	350	2.1%	18,238	▲1,018	▲5.6%	原油価格 (\$/bbl)
営業利益	790	870	▲80	▲9.2%	1,014	▲224	▲22.1%	▲41.29 (+0.95)
セグメント利益 (営業利益+持分法損益)	788	879	▲91	▲10.4%	1,066	▲278	▲26.1%	平均気温 (°C)
経常利益 …①	680	800	▲120	▲15.0%	1,026	▲346	▲33.8%	*4Q以降: 原油価格50.00\$/bbl、為替レート105円/\$
特別損益	▲14	▲18	4	—	▲351	337	—	年金
親会社株主に帰属する当期純利益	490	560	▲70	▲12.5%	432	58	13.2%	運用利回り ※コスト控除後
気温影響 …②	▲11	2	▲13	—	▲98	87	—	0.33%
補正項目	▲11	▲3	▲8	—	13	▲24	—	割引率
スライドタイムラグ …③ (都市ガス+LNG販売)	(▲24+13)	(▲13+10)	(▲11+3)	—	(0+13)	(▲24+0)	—	一時金分
年金取崩差異調整額 …④	8	8	0	—	▲76	84	—	0.012%
補正経常利益 …①-②+③+④	694	793	▲99	▲12.5%	1,187	▲493	▲41.5%	期末資産 (億円)
								2,590
								2,670
								2,710

※2020年度第3四半期連結会計期間において、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、2019年度に係る各数値については、暫定的な会計処理の確定の内容へ適及修正

Copyright© TOKYO GAS Co., Ltd. All Rights Reserved. TOKYO GAS

2020年度通期につきましては、「増収減益」と見通しております。見通しの前提となる1月以降の経済フレームは、為替レートを1ドル110円から105円に、原油価格については1バレル45ドルから50ドルに、それぞれ変更しております。

売上高は+270億円の1兆8,010億円と見通しております。これは、「ガスセグメント」における、低気温等に伴う発電用等のガス販売量増が主な要因です。

営業費用は+350億円の1兆7,220億円と見通しております。これはJEPX価格高騰等が主な要因です。

この結果、営業利益は▲80億円の790億円、経常利益は▲120億円の680億円、親会社株主に帰属する当期純利益は、▲70億円の490億円と見通しております。

減益の主な要因は、JEPX市場価格の高騰による電力セグメントのマイナス影響によるものです。

# 2020年度見通し (連結) ガス販売量・件数

10

## 都市ガス販売量

### 対前回見通し

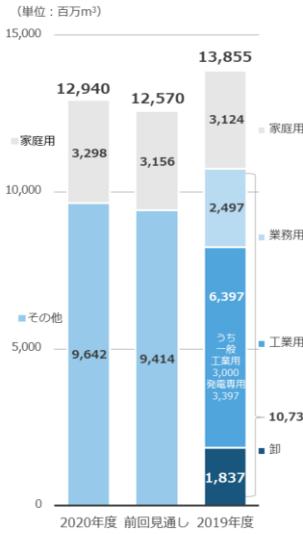
**+370百万m<sup>3</sup>**  
(+2.9%)の増加  
うち気温影響  
▲26百万m<sup>3</sup>、▲0.2%の減少

■ 家庭用 +142百万m<sup>3</sup>(+4.5%)  
■ その他 +228百万m<sup>3</sup>(+2.4%)

### 対前年実績

**▲915百万m<sup>3</sup>**  
(▲6.6%)の減少  
うち気温影響  
+170百万m<sup>3</sup>、+1.2%の増加

■ 家庭用 +174百万m<sup>3</sup>(+5.6%)  
■ その他 ▲1,089百万m<sup>3</sup>(▲10.1%)



## 件数、LNG販売量、平均気温

	見通し	前回見通し	増減	前年度実績	増減
取付メーター数 (万件) ※1	1,207.5	1,207.5	0	1,195.4	+12.1 (+1.0%)
LNG販売量 (千t)	1,083	1,056	+27 (+2.5%)	1,183	▲100 (▲8.4%)
平均気温 (°C)	16.2	16.1	+0.1	16.7	▲0.5

※1 休止中・閉校中・他社小売分を含む導管事業者としてのメーター取付数

## 販売・自家使用量 (百万m<sup>3</sup>)

	見通し	前回見通し	増減	前年度実績	増減
都市ガス販売量	12,940	12,570	+370 (+2.9%)	13,855	▲915 (▲6.6%)
トーリングによるガス自家使用量	3,250	3,155	+95 (+3.0%)	2,333	+917 (+39.3%)
LNG販売量 (m換算)	1,354	1,321	+33 (+2.5%)	1,479	▲125 (▲8.4%)
合計	17,544	17,046	+498 (+2.9%)	17,666	▲122 (▲0.7%)

※各項目は四捨五入して表示

Copyright© TOKYO GAS Co., Ltd. All Rights Reserved. TOKYO GAS

この見通しのベースとなるガス販売量の見通しについてご説明いたします。ガス販売量は、前回見通しとの対比で+2.9%、3億7千万m<sup>3</sup>の増加を見込んでおり、その内、気温影響は▲0.4%、▲2千6百万m<sup>3</sup>です。前回見通しからの修正は、12月までの実績を反映させたほか、家庭用について巣ごもり影響等を反映しております。

## 2020年度見通し (連結) 電力販売量・件数

11

### 電力販売量

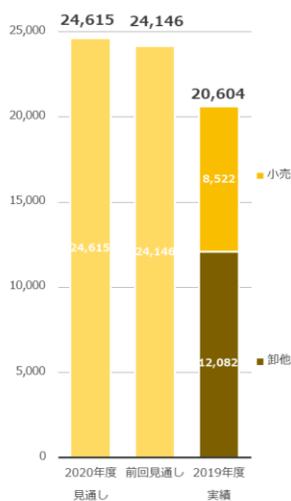
#### 対前回見通し

+469百万kWh  
(+1.9%)の増加

#### 対前年実績

+4,011百万kWh  
(+19.5%)の増加

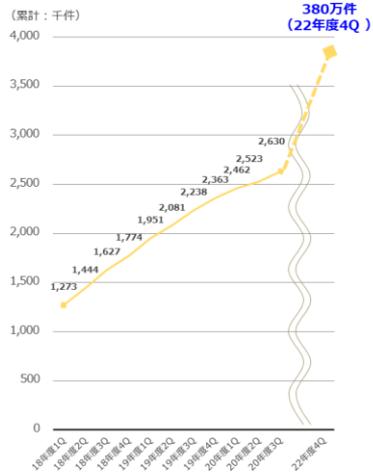
(単位: 百万kWh)



※各項目は四捨五入して表示

### 小売件数

※小売件数 = 供給中件数



Copyright© TOKYO GAS Co., Ltd. All Rights Reserved. TOKYO GAS

電力販売量についてご説明いたします。

電力販売量は、前回見通しとの対比で+1.9%、の246億1,500万kWhを見通しており、主に卸他の販売量増を見込んでおります。

## 2020年度見通し (セグメント別) 売上高・利益

対前回見通し

12

(単位: 億円)

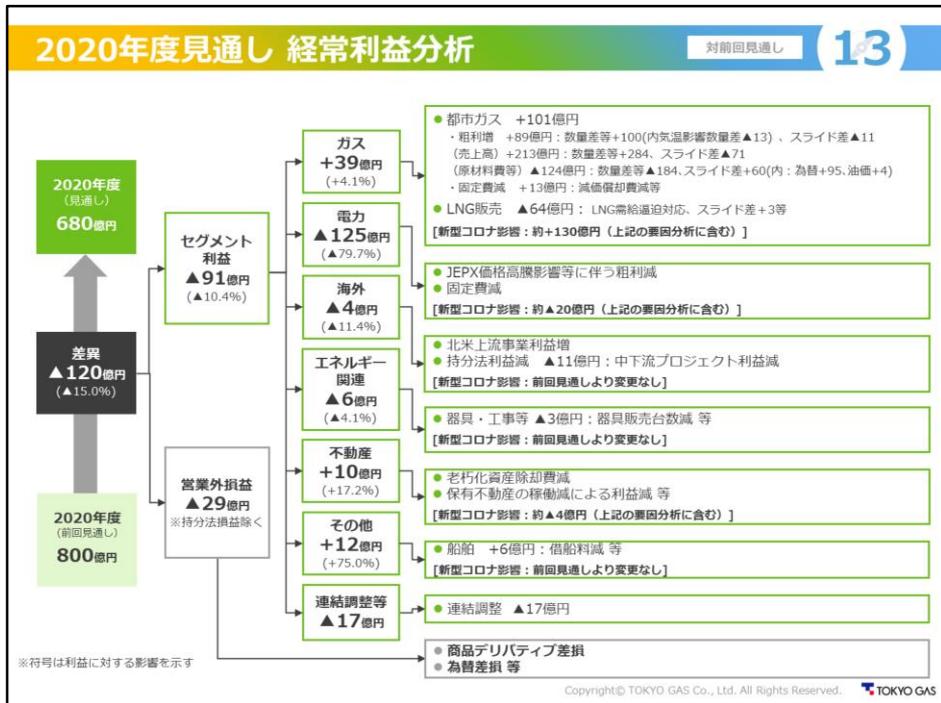
	売上高				セグメント利益 (営業利益 + 持分法損益)			
	見通し	前回見通し	増減	%	見通し	前回見通し	増減	%
ガス	11,528	11,321	207	1.8	1,001	962	39	4.1
(都市ガス)	9,753	9,540	213	2.2	1,064	963	101	10.5
(LNG販売)	1,354	1,347	7	0.5	▲70	▲6	▲64	—
電力	3,927	3,884	43	1.1	31	156	▲125	▲79.7
海外	487	496	▲9	▲1.8	31	35	▲4	▲11.4
(持分法損益)	—	—	—	—	▲8	3	▲11	▲366.7
エネルギー関連	3,372	3,391	▲19	▲0.6	139	145	▲6	▲4.1
(インフラ/ソリューション)	1,427	1,423	4	0.3	54	47	7	15.1
不動産 (持分法損益含む)	483	485	▲2	▲0.4	68	58	10	17.2
その他 (持分法損益含む)	1,091	1,123	▲32	▲2.8	28	16	12	75.0
調整額	▲2,879	▲2,961	82	—	▲511	▲494	▲17	—
セグメント合計額	18,010	17,740	270	1.5	788	879	▲91	▲10.4
(持分法損益)	—	—	—	—	▲2	8	▲10	▲123.0

[注] ・セグメント別の売上高には事業間の内部取引を含んでおります。  
 ・「ガス」には、都市ガス、液化石油ガス、産業ガス、LNG販売、トレーディングを含みます。「エネルギー関連」には、インフラ/ソリューション、ガス器具、ガス工事、建設、クレジット等を含みます。「その他」には、情報処理サービス、船舶等を含みます。  
 ・セグメント利益の調整額の主なものは、各セグメントに配分していない全社費用です。

Copyright© TOKYO GAS Co., Ltd. All Rights Reserved. TOKYO GAS

セグメント別の売上高および利益の見通しと、前回見通しに対する増減を記載しております。

セグメント利益は788億円、前回見通しに対して▲91億円と見通しております。



セグメント利益の主な増減について、説明いたします。

ガスセグメントにおいては、都市ガスの販売量増等に伴う粗利増等による増益が、LNG販売における、LNG需給逼迫対応による減益を上回り、+39億円と見通しています。

電力セグメントにおける▲125億円は、JEPX価格高騰影響等に伴う粗利減によるものです。

LNG需給逼迫やJEPX価格高騰といった要因により、前回見通しに対して、第3四半期までに積み上がっていた利益が縮小し、減益となる見通しです。

## 2020年度見通し (セグメント別) 売上高・利益

対前年度実績

14

(単位: 億円)

	売上高				セグメント利益 (営業利益 + 持分法損益)			
	見通し	前年度実績	増減	%	見通し	前年度実績	増減	%
ガス	11,528	13,554	▲2,026	▲14.9	1,001	1,024	▲23	▲2.3
(都市ガス)	9,753	11,428	▲1,675	▲14.7	1,064	978	86	8.7
(LNG販売)	1,354	1,699	▲345	▲20.3	▲70	39	▲109	▲276.9
電力	3,927	3,586	341	9.5	31	100	▲69	▲68.5
海外	487	439	48	10.7	31	132	▲101	▲76.6
(持分法損益)	—	—	—	—	▲8	46	▲54	▲117.2
エネルギー関連	3,372	3,519	▲147	▲4.2	139	169	▲30	▲18.2
(インフラ/ソリューション)	1,427	1,394	33	2.4	54	58	▲4	▲7.5
不動産 (持分法損益含む)	483	445	38	8.5	68	96	▲28	▲29.9
その他 (持分法損益含む)	1,091	1,232	▲141	▲11.4	28	57	▲29	▲51.4
調整額	▲2,879	▲3,524	645	—	▲511	▲515	4	—
セグメント合計額	18,010	19,252	▲1,242	▲6.5	788	1,066	▲278	▲26.1
(持分法損益)	—	—	—	—	▲2	52	▲54	▲103.9

[注] ・セグメント別の売上高には事業間の内部取引を含んでおります。

・「ガス」には、都市ガス、液化石油ガス、産業ガス、LNG販売、トレーディングを含みます。「エネルギー関連」には、インフラ/ソリューション、ガス器具、

ガス工事、建設、クレジット等を含みます。「その他」には、情報処理サービス、船舶等を含みます。

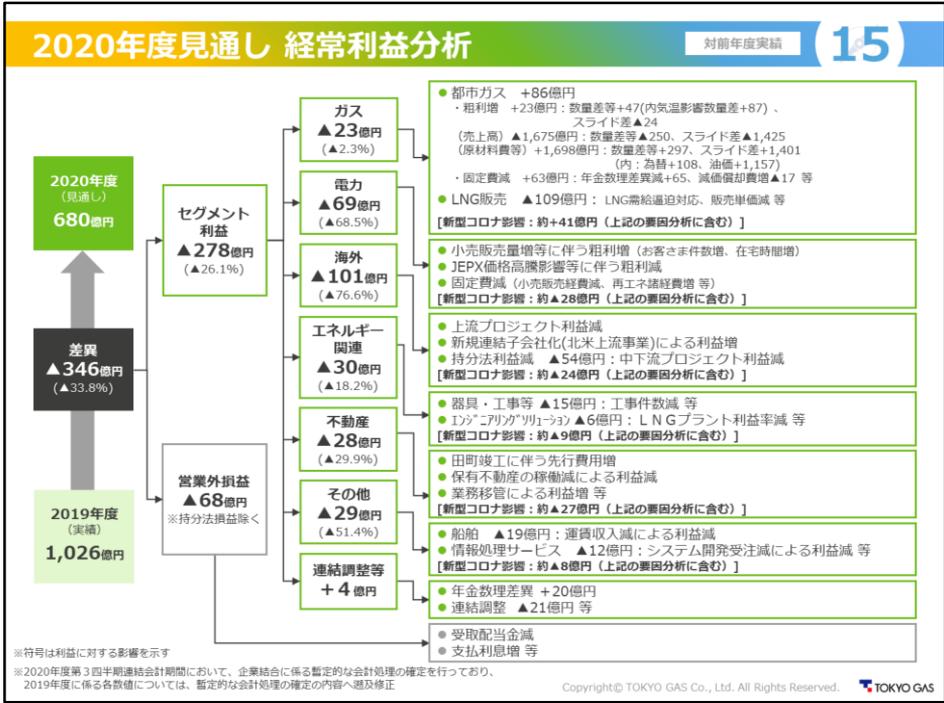
・セグメント利益の調整額の主なものは、各セグメントに配分していない全社費用です。

※2020年度第3四半期連結会計期間において、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、

2019年度に係る各数値については、暫定的な会計処理の確定の内容へ適及修正

Copyright© TOKYO GAS Co., Ltd. All Rights Reserved. TOKYO GAS

前年度実績と対比した、セグメント別の売上高およびセグメント利益の見通しと、その増減についてお示ししております。



ガスセグメントでは、巣ごもり等に伴う家庭用ガス販売量増加による都市ガス粗利増を見通すものの、LNG販売における、LNG需給逼迫対応等により、▲23億円と見通しています。

電力セグメントでは、小売件数の増加に伴う販売量増等による粗利が増加するものの、JEPX価格高騰影響等に伴う粗利減により▲69億円と見通しています。

海外セグメントでは、原油価格の下落に伴う上流プロジェクトの利益減による影響が大きく、▲101億円と見通しています。

エネルギー関連セグメントでは、新型コロナ影響による工事件数の減少等により、▲30億円と見通しています。

不動産セグメントでは、ムスブ田町の竣工に伴う先行費用の発生による影響が大きく、▲28億円と見通しています。

その他セグメントでは、船舶事業の運賃収入減により、▲29億円と見通しています。

参考:前年度からの変化要素の内容

16

(+ / ▲ は利益に対する増減)

項目	主な内容	1Q時点見通し 影響額(※1)	2Q時点見通し 影響額(※2)	3Q時点見通し 影響額(※3)
スライド等	(+) スライドタイムラグ (+) 都市ガス気温影響 (+) 年金数理差異	+220億円程度	+170億円程度	+150億円程度
コスト改革	(+) 諸経費効率化	+100億円程度	+100億円程度	+100億円程度
一過性費用	(▲) 基幹システムの稼働に伴うデータ移行費 (▲) 老朽化資産除却費等	▲110億円程度	▲110億円程度	▲110億円程度
その他利益増減	(+) 電力小売販売量増 (▲) JEPX価格高騰影響 (▲) ガス需要脱落による販売量減 (▲) 減価償却費用増 (▲) 切り拓き費用増 (DX関係費用等) (▲) 海外プロジェクト利益減等	▲220億円程度	▲120億円程度	▲360億円程度
新型コロナ影響(※4)	(▲) LNG需給調整費用 (▲) ガス以外のセグメント利益減(器具・受入・ホテル等) (+) 都市ガス粗利増(販売量:家庭用増加、その他減少) (+) 新型コロナ影響に伴う諸経費執行見送り・抑制等 (+) 在宅時間増加による小売電力販売量増等	▲300億円程度	▲220億円程度	▲60億円程度

(※1) 7月以降の経済フレーム:原油価格45\$/bbl、為替レート110円/¥。

(※2) 10月以降の経済フレーム:原油価格45\$/bbl、為替レート110円/¥。

(※3) 1月以降の経済フレーム:原油価格50\$/bbl、為替レート105円/¥。

(※4) 新型コロナ影響は現時点での想定にもとづく推計であり、今後大きく変動する可能性があります。

Copyright© TOKYO GAS Co., Ltd. All Rights Reserved. TOKYO GAS

ご参考として、第1四半期にお示した「前年度からの変化要素」と同じ括りで、第3四半期時点の見通しをお示しております。

項目別に見ますと、JEPX価格高騰影響により「その他利益増減」が悪化している一方で、巣ごもり等に伴う家庭用ガス販売量増加による都市ガス粗利増により「新型コロナ影響」の見通しが改善しています。

## 2020年度見通し（連結）キャッシュ・フローの使途（設備投資と投融資）

17

(単位: 億円)

	見通し	主な件名	前回見通し	増減	%	前年度実績	増減	%
ガス	1,566	製造設備 140 (対前回▲45) : 日立LNG基地拡張等 供給設備 1,003 (対前回+24) : 茨城幹線建設、需要開発等 業務設備等 422 (対前回▲229) : システム関連等	1,816	▲250	▲13.8	1,663	▲97	▲5.9
設備	電力	国内再エネ等	166	▲36	▲21.5	23	107	459.9
海外	488	上流 (蒙州・北米)、海外再エネ等	607	▲119	▲19.5	90	398	440.9
投資	エネルギー関連	TGESエネルギーサービス事業等	220	▲50	▲23.0	175	▲5	▲3.3
不動産	198	田町等	300	▲102	▲34.0	337	▲139	▲41.3
その他	46		49	▲3	▲6.7	27	19	66.6
調整額	▲50		▲61	11	—	▲48	▲2	—
計	2,550		3,100	▲550	▲17.7	2,270	280	12.3
投融資	ガス		0	0	—	0	0	—
電力	581	国内再エネ、海外電力小売企業への出資等	396	185	46.4	203	378	185.9
海外	268	上流 (蒙州)、中下流 (アジア)、海外再エネ等	317	▲49	▲15.3	293	▲25	▲8.3
回収含まず	エネルギー関連	TGESエンジニアリング事業等	106	0	▲0.2	97	9	8.8
不動産	3		3	0	—	0	3	—
その他 (無件名含む)	3		583	▲580	▲99.4	4	▲1	▲18.2
計	962		1,407	▲445	▲31.6	598	364	61.0
設備投資・投融資 (回収含まず) 合計	3,512		4,507	▲995	▲22.1	2,868	644	22.5
回収 計	27		28	▲1	▲3.4	72	▲45	▲62.6
設備投資・投融資 (相殺後) 合計	3,485		4,478	▲993	▲22.2	2,795	690	24.7

Copyright © TOKYO GAS Co., Ltd. All Rights Reserved. TOKYO GAS

2020年度におけるキャッシュフローの使途の見通しをお示ししております。

第3四半期までに意思決定した設備投資・投融資により、前年度実績を大きく上回る見通しです。

一方、各案件の進捗を踏まえた精査により、前回見通しに対しては大きく下回る見通しです。

## 主要計数表（連結）

18

(単位: 億円)

	2020年度見通し	2019年度実績	2018年度実績
総資産(a)	26,940	25,399	24,281
自己資本(b)	11,510	11,477	11,590
自己資本比率(b)/(a)	42.7%	45.2%	47.7%
有利子負債(c)	10,720	9,050	8,032
D/Eレシオ(c)/(b)	0.93	0.79	0.69
親会社株主に帰属する当期純利益(d)	490	432	845
1株当たり当期純利益 (円/株)	111.11	97.86	187.60
減価償却(e)	1,810	1,696	1,618
営業キャッシュ・フロー(d)+(e)	2,300	2,129	2,464
投資			
設備投資	2,550	2,270	2,237
投融資（回収含まず）	962	598	336
計	3,512	2,868	2,574
ROA (d)/(a)	1.9%	1.7%	3.6%
ROE (d)/(b)	4.3%	3.8%	7.4%
WACC	2.5%	2.7%	3.0%
総分配性向	—	61.0%	60.3%

注: 自己資本 = 純資産 - 非支配株主持分  
 ROA = 純利益/総資産 (期首・期末平均)  
 ROE = 純利益/自己資本 (期首・期末平均)  
 BS関連数値は各期末時点の数値  
 営業キャッシュフロー = 純利益 + 減価償却 (長期前払費用償却含む)  
 総分配性向 = [N年度の配当 + (N+1)年度の自社株取得] / N年度の連結純利益  
 ※2020年度第3四半期連結会計期間において、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、  
 2019年度に係る各数値については、暫定的な会計処理の確定の内容へ適及修正

■ WACC算定諸元(2020年度見通し)  
 a) 有利子負債コスト 実績金利0.66%(税引後)  
 b) 株主資本コスト率  
 c) リスクフリーレート 10年国債利回 0.02%  
 d) マーケットリスクプレミアム 5.5% β値 0.75

Copyright© TOKYO GAS Co., Ltd. All Rights Reserved. TOKYO GAS

連結ベースの主要計数を掲載しております。



巻末には、参考資料として経済フレーム感度表に加え、原油価格・為替レート、本年度の本日までの主なプレスリリース、主な海外投資案件、電力・都市ガスのスイッチング件数の推移等を掲載しておりますので、ご参照ください。

原油価格JCCが\$1/bbl上昇する場合

(単位: 億円)

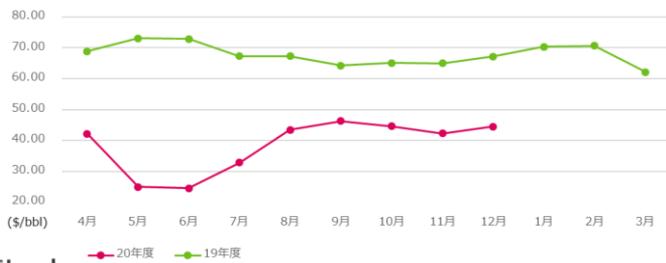
		収支影響時期
		第4四半期
変動時期	第4四半期	▲ 1

円ドルレートが¥1/\$円安になる場合

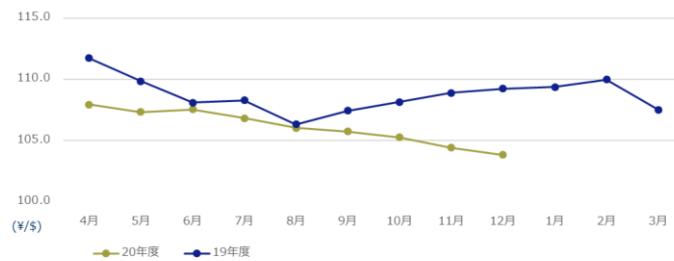
(単位: 億円)

		収支影響時期
		第4四半期
変動時期	第4四半期	▲ 8

原油価格 (JCC)



為替レート



## 2020年度 主なトピックス (1月28日まで、プレスリリース等より抜粋)

22

<b>全般 (ESG含む)</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍を踏まえた東京ガスグループ経営改革の取り組みについて(11/30)</li> <li>・指名委員会等設置会社への移行に関するお知らせ(11/30)</li> <li>・経営部門の分社化後の会社形態と分社化の方式について(11/30)</li> </ul>
<b>ガス・電力 (ESG含む)</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・太陽光発電無償提供サービス「ずっともソーラー×トヨタホーム」を開始(4/20)</li> <li>・米田グリーンビル・パワースタッフへの出資について、〜ウインドフロッター技術による浮体式洋上風力発電事業の展開に向けて〜(5/27)</li> <li>・東京ガス初のなる「FIT特化型証書を用いた実質再生可能エネルギー電気」の取扱いを開始(7/2)</li> <li>・富山県高岡市および千早奥市原市における木質バイオマス発電事業の取得について(8/26)</li> <li>・LNGトレーディング新社の設立について(9/1)</li> <li>・電力契約件数が250万件を突破！(9/3)</li> <li>・THIS ECO ZERO (ヒュース エコゼロ) ×ずっともソーラーの提供を開始〜家庭用燃料電池「エネファーム」との組合せなど、2つの太陽光発電サービスプランをご提供〜(9/8)</li> <li>・ホテル業界初となるカーボンニュートラル都市ガスの供給開始について(10/8)</li> <li>・マンション・ビル向け太陽光エネルギーサービス「ヒタオソーラー」の開始について(10/14) ※1</li> <li>・Amazonギフト券が毎月もらえる、新電気料金プラン「もらえる電気」の申込受付を開始〜関東エリア外における東京ガス初の低圧電気販売〜(10/15)</li> <li>・太陽光発電の余剰電力買取りサービスの拡充について〜車載電池購入サポートプランとAmazonギフト券お支払いプランの提供を開始〜(10/16)</li> <li>・洋上風力発電事業における合弁会社への東京ガスの参画について(11/25)</li> <li>・スマートメーターシステムの共同開発について(12/2)</li> <li>・英国オクトパスエナジー社との戦略的提携について(12/23)</li> </ul>
<b>サービス (ESG含む)</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆エンジニアリングソリューション                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・株式会社スミレナエナジークリエイトの設立について(4/7)</li> <li>・琉球エネルギーサービス合同会社の設立について(5/11)※2</li> <li>・家庭用燃料電池「エネファーム」を活用した(バーチャル)P2Pプラットフォーム実証の開始について(6/1)</li> <li>・鹿児島市交通施設用地再開発事業「キラメキアラス」における「スマートエネルギーネットワーク」によるエネルギーサービスの開始について〜環境にやさしく、災害に強いエネルギー供給の開始について〜(7/1)※2</li> <li>・宮崎県都立総合病院へのエネルギーサービス開始について(7/1)※2</li> <li>・米国ヘイラ社への出資について(11/20)</li> <li>・ガスCO<sub>2</sub>エネルギーシステムによるエネルギーの地産地消でCO<sub>2</sub>排出量削減とレジリエンス強化を実現 /ナソニック 大泉拠点で環境にやさしいモノづくりを推進(12/11)※2</li> <li>・東京建物の物流施設「T-LOGI」再生可能エネルギーを活用した環境配慮の取組みを実施〜東京建物と東京ガスが基本協定書を締結〜(1/13)</li> <li>・新潟県魚沼市「水の郷工業団地」における特別協賛共同発電事業の基本合意締結について〜官民連携によるエネルギー供給基盤整備の取組み〜(1/14)※2</li> </ul> </li> <li>◆その他                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・東京ガスリビングエンジニアリング株式会社と東京ガスリモデリング株式会社との統合について(4/6)※3</li> <li>・東京ガス発ベンチャー「スミレナ」暮らしの月額定額制サービスを開始〜スタートアップを中心とした企業4社と連携した「Rest HOME」キャンペーンを実施〜(6/17)※4</li> <li>・〜JR田町駅東口直結の大規模複合開発が完成〜 msb Tamachi (ムズブ田町) 田町ステーションタワーNの竣工について(7/15)※5</li> <li>・LINE Payと東京ガス、払込費のペーパーレス化に向けた基本合意書を締結 業界初、ガス・電気料金等の請求からお客さまによる支払いまでLINE上で完結〜(9/10)</li> <li>・「ガス機器メンテナンスサポート」のメニューを拡充〜「定額制」で安心！永まわり・電気設備修理サービスの提供を開始〜(10/1)</li> <li>・「虎ノ門二丁目地区第一種市街地再開発事業業務棟」新時代の国際ビジネス拠点に大規模オフィスプロジェクト始動(10/19)※5</li> <li>・SIRC社への出資について(1/15)</li> <li>・家庭用燃料電池「エネファーム」累計販売台数14万台を達成(1/19)</li> </ul> </li> </ul>

※1 ヒタオエナジーによるリリース

※2 東京ガスエンジニアリングソリューションズによるリリース

※3 東京ガスリビングエンジニアリングと東京ガスリモデリングによるリリース

※4 スミレナによるリリース

※5 東京ガス不動産によるリリース

## 2020年度 主なトピックス (1月28日まで、プレスリリース等より抜粋)

23

<b>海外 (ESG含む)</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・米国における子会社の設立および大規模太陽光発電事業の取得について(7/29)</li> <li>・米国レイジアナ州における新たなガス田の権益の取得に伴う持分法適用関連会社(キャッスルトン・リソース社)の連結子会社化について(7/29)</li> <li>・フィリピン共和国における浮体式LNG基地建設および運営事業に関するファーストジェン社との相互協力契約の締結について(10/7)</li> <li>・インドネシア共和国におけるガス配給事業会社への出資について(11/26)</li> </ul>
<b>ESG</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緊急事態宣言を踏まえた東京ガスグループの当面の取り組みについて(4/7)</li> <li>・2020年 新型コロナウイルス感染拡大に伴うお客さまに対するガスならびに電気料金の特別措置の追加対応について(4/24)</li> <li>・2020年 新型コロナウイルス感染拡大に伴うお客さまに対するガスならびに電気料金の特別措置の追加対応について(5/13)</li> <li>・2020年 新型コロナウイルス感染拡大に伴うお客さまに対するガスならびに電気料金の特別措置の追加対応について(6/24)</li> <li>・栃木県との「災害時における相互協力に関する基本協定」の締結について(7/3)</li> <li>・2020年 新型コロナウイルス感染拡大に伴うお客さまに対するガスならびに電気料金の特別措置の追加対応について(7/20)</li> <li>・ステークホルダーの皆さまへ～新型コロナウイルス感染拡大を踏まえたトップメッセージ～(7/29)</li> <li>・2020年 新型コロナウイルス感染拡大に伴うお客さまに対するガスならびに電気料金の特別措置の追加対応について(8/6)</li> <li>・「デジタルトランスフォーメーション基幹2020」選定について(8/25)</li> <li>・「東京ガスグループ サステナビリティレポート2020」の発行について(8/31)</li> <li>・2020年 新型コロナウイルス感染拡大に伴うお客さまに対するガスならびに電気料金の特別措置の追加対応について(9/2)</li> <li>・2020年 新型コロナウイルス感染拡大に伴うお客さまに対するガスならびに電気料金の特別措置の追加対応について(10/14)</li> <li>・再生可能エネルギーと地域が共に発展していくことを目指して当社「FOUR(四葉)」の共同検討に参画しました(10/19)</li> <li>・2020年 新型コロナウイルス感染拡大に伴うお客さまに対するガスならびに電気料金の特別措置の追加対応について(11/18)</li> <li>・2020年 新型コロナウイルス感染拡大に伴うお客さまに対するガスならびに電気料金の特別措置の追加対応について(12/21)</li> <li>・2021年 新型コロナウイルス感染拡大に伴うお客さまに対するガスならびに電気料金の特別措置の追加対応について(1/22)</li> </ul>
<b>財務・ 株主還元</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別損失の計上及び業績予想の修正に関するお知らせ(4/23)</li> <li>・第58回、第59回、第60回、第61回無担保社債発行のお知らせ(5/22)</li> <li>・第62回、第63回、第64回、第65回無担保社債発行のお知らせ(9/4)</li> <li>・東京ガス初となるグリーンボンドの発行について(10/29)</li> <li>・グリーンボンド(第66回無担保社債)発行のお知らせ(12/4)</li> </ul>

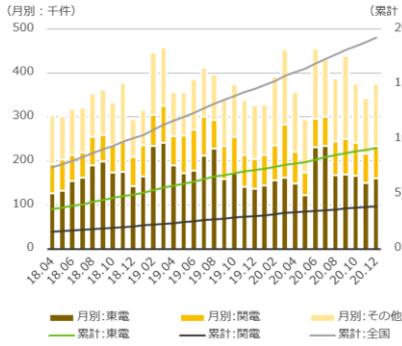


地域	番号	国名	案件名称	投資分野/投資内容	参加年
北米	①	米国	バーネット	上流 シェールガス	2013
			イーグルフォード	上流 シェールガス	2016
			東テキサス	上流 シェールガス	2017
			T G E Sアメリカ	中下流 エネルギーサービス	2015
			バースボロー	中下流 天然ガス発電	2017
			アクティナ	中下流 太陽光発電	2020
			アカリオベンチャーズ	その他 オープンイノベーション	2017
			パヒオ	中下流 天然ガス発電	2004
	②	メキシコ	MTファルコン	中下流 天然ガス発電	2010
			エオリオス・エンターヘー	中下流 再生可能エネルギー開発事業 (太陽光・風力)	2019
東南アジア	③	マレーシア	ガスマレーシア	下流 都市ガス	1992
			ガスマレーシアエネルギーアドバンス	中下流 エネルギーサービス	2014
	④	タイ	バンポー	中下流 天然ガス発電	2016
			カルフ・ダブルエイチエー・エムディー	中下流 ガス配給	2018
	⑤	ベトナム	ファン・バンコク	中下流 地域冷房・配電事業	2020
			ベトロベトナムガス販売	中下流 娯楽・CNG供給	2017
			バンジ・ラヤ・アラミンド	中下流 ガス配給・輸送	2017
⑥	インドネシア	スーバレー・エナジー	中下流 ガス配給・輸送	2020	
		FGEN LNG	下流 LNG基地建設、運営、メンテナンス	2020	
オセアニア	⑧	オーストラリア	ダーウイン	上流 天然ガス生産・液化・販売	2003
			ブルート	上流 天然ガス生産・液化・販売	2008
			ゴーゴン	上流 天然ガス生産・液化・販売	2009
			クイーンズランド・カーティス	上流 天然ガス生産・液化・販売	2011
			イクシス	上流 天然ガス生産・液化・販売	2012

# スイッチング件数の推移(公表値) / 小売お客さま件数

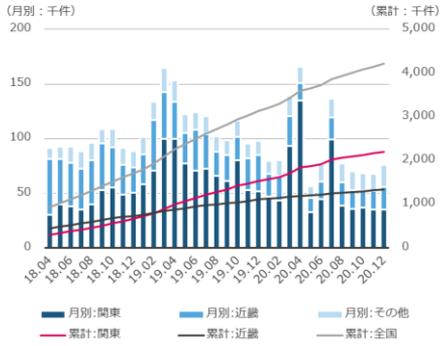
25

### 電力のスイッチング件数 (申込みベース)



※電力広域的運営推進機関の公表値に基づく

### 都市ガスのスイッチング件数 (申込みベース)



※資源エネルギー庁の公表値に基づく

### 当社 (連結) 都市ガス 小売お客さま件数 (万件)

小売全面自由化 (2017.4)

	2017.3	2017.6	2017.9	2017.12	2018.3	2018.6	2018.9	2018.12	2019.3	2019.6	2019.9	2019.12	2020.3	2020.6	2020.9	2020.12
件数 (増減)	1,026.9 (-)	1,031.4 (+4.5)	1,028.9 (▲2.5)	1,029.6 (+0.7)	1,020.9 (▲8.7)	1,018.9 (▲2.0)	1,008.9 (▲10.0)	998.2 (▲10.7)	982.1 (▲16.1)	960.7 (▲21.4)	940.5 (▲20.2)	925.9 (▲14.6)	912.9 (▲13.0)	904.4 (▲8.5)	897.5 (▲6.9)	893.5 (▲4.0)



#### <見通しに関する注意事項>

このプレゼンテーションに掲載されている東京ガスの現在の計画、見通し、戦略、その他の歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであり、これらは現在入手可能な情報から得られた東京ガスの経営者の判断に基づいております。

実際の業績は、さまざまな要素により、これら業績見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おき下さい。実際の業績に影響を与える重要な要素には、日本経済の動向、原油価格の動向、気温の変動、円ドルの為替レート変動、ならびに急速な技術革新と規制緩和の進展への東京ガスの対応等があります。